

第 6 回社会福祉事業団問題等第三者検証委員会
(平成 26 年 3 月 24 日)における主な意見

テーマ	意 見
① 中間報告	<p>3 資料 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者の安心のためにも、虐待が確認された職員について処分が確実に行われ、在職中の職員については適切な管理がなされていることを記載する。 ○虐待は重大な暴行から暴言まであり、それぞれ程度が異なることから、全てが暴行ではなく、様々な内容（虐待（暴行）・性的虐待・心理的虐待）があることを記載する。 <p>7 I 2 (3)【今後のあるべき姿、方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「不適切な支援」という言葉は、「やむなく行った不適切な支援は許される」といった誤解を招き支援現場の実情に相応しくないためなるべく避けるべきであり、「虐待」を用いる。 ○（一度虐待した人間は二度と支援現場にたてないとなると支援員が委縮するため）原案ではセカンドチャンスを与えると記載しているが、原案のままだと虐待を容認するように捉えられかねないため、「虐待はあってはならない」という前提と、「再教育後に教育の成果があった場合に」という記載を盛り込む。 <p>7 III 事件後の対応は適切か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○虐待を受けた利用者の保護者に対して、説明はしたのか。 [事務局回答「養育園第 2 寮の虐待を受けた利用者 10 名の保護者をはじめ、説明・謝罪しており、年度内に全保護者に対応する。」（なお、25 年度末までに全て対応済。）] ○養育園第 2 寮の利用者本人に対して、謝罪はしたのか。 [事務局回答「本人に対して、直接の謝罪は行っていない。」] （謝罪によって状態が悪化しないよう注意する必要があるが、）特に養育園第 2 寮の利用者本人に対しての謝罪を含めたケアの必要性について記載する。 <p>7 IV センターは今後どうあるべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中間報告に記載した各団体からの要望にもあった県立施設の設置者としての県の責任の明確化については、今後もしっかりと検証する。 ○指定管理の在り方については、受託法人側の事情も加味したうえで、引き続き検討する必要がある。
② パーソナルサポーターについて	<ul style="list-style-type: none"> ○記録を取るにあたり、問題行動に限らず、日常生活面も充実させることが必要。さらに、その記録によって監視するのではなく、別のアプローチで個々の利用者に適った支援を行っていくべき。 ○パーソナルサポーター間でも支援手法や視点は微妙に異なっている。検証委員会でのスーパーバイズを経て、優れた視点とされたものについて、報告を受けた県の方でパーソナルサポーター等にフィードバックしていくこと。